関西電力グループ
power with heart

関電プラント 経営戦略２０４０

2025年4月1日

関電プラント株式会社

All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

未来へ、カラを破る。

関電プラントは、2024年10月に創立20周年を迎えました。その節目にあたり、20年先の変化と私たちの進むべき姿を見据え、「関電プラント経営戦略２０４０（経戦２０４０）」を策定しました。

鍵となるのは、GXの加速、電力需要の増加、これを受けた原子力の最大限活用、ゼロエミッション火力の持続的活用や再生可能エネルギーの導入拡大。
「エネルギーと環境を中心としたプラントエンジニアリング事業で社会に貢献」という使命は、変化の時代にあっても、決して変わることはありません。エネルギーの安定供給を通じた確かな存在感と信頼感は、私たちの企業価値そのものです。

さらに、風力やロケットといった新たな領域への挑戦にも踏み出していくために、「未来へ、カラを破る。」という意志を組織や戦略の変革に込めて、我々は進化を続けます。こうした挑戦を支える事業基盤として、コンプライアンスを徹底し、従業員や協力会社の安全と健康を最優先に考え、誇りと信頼感・一体感をもって働き続けられる風通しのよい組織風土を育みます。

その先にあるのは、お客さまへの価値提供、働く仲間の安心と生活の向上、地域社会への貢献、そして関西電力グループへの持続的な貢献です。私たちはそれらを現実的な未来像として描き、道筋を明らかにしました。この「経戦２０４０」を「何としてもやり切る、やり遂げる」という強い意志を持ち、次の20年に向けて着実に歩み続けます。

目次

１．経戦２０４０の位置づけ
２．事業環境認識
３．経戦２０４０の方向性
４．事業分野ごとの展望
５．収支戦略
６．要員戦略
７．基盤整備
８．経営戦略上の指標

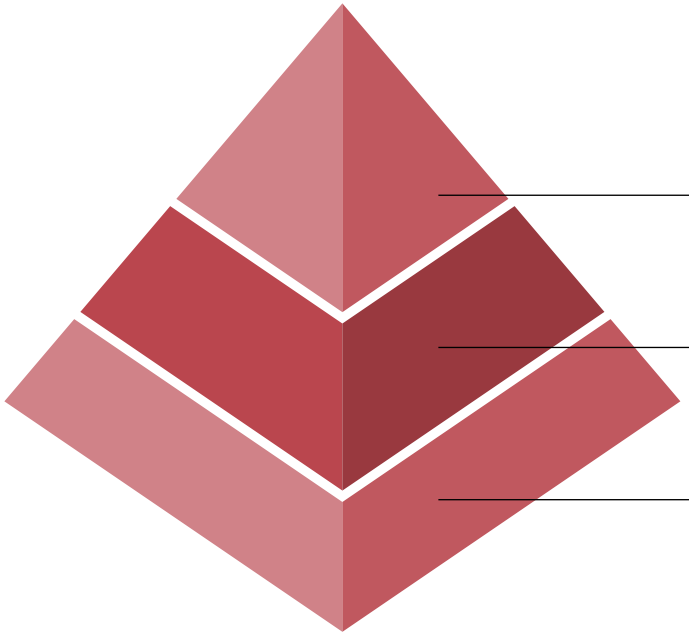
All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

1

経戦２０４０の位置づけ

「これから」に向けた、確かな羅針盤として。

中長期視点で大きな方向性を示しつつ、
単年度では実効性を重視したフレキシブルな計画で事業を推進していきます。



全社単年度経営計画
単年度計画・目標値

関電プラント経営戦略２０４０
中長期視点の計画・戦略

経営理念
エネルギーと環境を中心とした
プラントエンジニアリング事業で広く社会に貢献

社是
安全優先・現地現物・誠実施工

関西電力グループ方針

ベースとなる「**経営理念**」に基づいて、将来的な環境変化を踏まえた中長期視点の「**経戦２０４０**」。
さらに、短期的な経営環境の変化に合わせて修正・方向転換を図る「**単年度経営計画**」。
中長期と短期、２つの視点で未来を見通す経営を行っていきます。

All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

2

事業環境認識

変化を捉えることが、強い戦略を生む。

私たちを取り巻く業界全体の環境変化と将来的な顧客の変化。
戦略の策定に先立ち、それぞれを網羅的に分析しました。

エネルギー業界の環境変化

GX※推進　【政府方針】

- 第7次エネルギー基本計画の策定
- GXロードマップの策定
- GX脱炭素電源法の成立 etc.

生産年齢人口の減少

- 企業間の採用競争激化
- サプライチェーン構築難による施工力不足
- コスト増加 etc.

※ グリーントランスフォーメーション：
温室効果ガスの排出削減と経済成長の両立を目指す社会変革の取組み

長期時間軸視点では…

2040年に向けた弊社顧客の変化

火力電源

- 化石燃料からの水素/アンモニアへのシフト
- LNG火力の利活用
- 非効率石炭、油火力の廃止

原子力電源

- 最大限活用の推進
- リプレイスの環境醸成

再生可能エネルギーの導入拡大

工事力確保の要請増大

All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

3

経戦２０４０の方向性

貢献し続けるための、確かな戦略がある。

持続的な貢献を将来に渡り実現していくために、
私たちはどうあるべきかを多角的な視点で考えました。

1 収支戦略

事業環境の変化を踏まえ、事業分野ごとに、**“これまでのベース”**と2030年ごろまでフォアキャストした**“あるべき姿”**、そして、2050年からバックキャストした**“ありたい姿”**で整理した**収支戦略**。

2 要員戦略

「人の会社」としての事業の源泉は**“総合力”**と**“強い現場力”**。これに必要な**要員戦略**として、人財確保・人財配置・人財育成を計画的に推進。

3 基盤整備

工事力の持続的な確保に向けた**基盤整備**にも注力。「人の会社」の強みをさらに強化していくために、**従業員エンゲージメントの向上**をはじめ、**事業基盤強化**を推進。

これらの戦略のもと、
弊社の事業に関係する、
みなさまへの
持続的な貢献を実現。

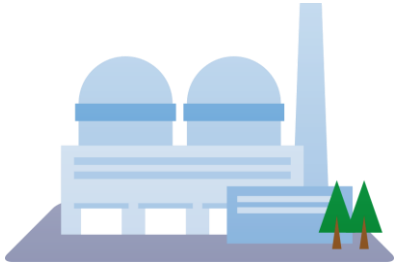
All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

4

事業分野ごとの展望

積み重ねてきたからこそ、拓く未来がある。

これまで培ってきた技術や知見を活かし、
3つの分野でさらなる社会貢献と、企業としての成長を実現していきます。

	プラント分野	原子力分野	新規分野 （風力、ロケット等）
			
エネルギー事業を取り巻く環境変化	**化石燃料からのシフト**に向け、**水素/アンモニア混焼**や、**サプライチェーン強化**、**CCSの導入**が促進	原子力を**最大限活用**する国の方針が明確になり、**再稼動や革新炉**への**リプレイス**が促進	導入が加速する洋上風力の課題は、**保守管理の技術確立・コスト低減化** 宇宙開発に向け**小型ロケット**の**ニーズは年々増加**
私たちの取組み	これまで**培った技術力**で関西電力の**取組み**を**支える**とともに、DXツールを用いたソリューションで、一般顧客の**脱炭素化にも貢献**	関西電力の7基稼動/4基廃炉を支えるとともに、関西電力の安全対策工事で得た**経験・知識**を**他電力の原子力に還元**し、**原子力全体の安定化**に貢献	洋上風力：自社開発した**ドローンを用いた革新的保守技術**で貢献 ロケット：プラント施設のメンテナンスで培った**高い技術力・品質力**で打ち上げに貢献

All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

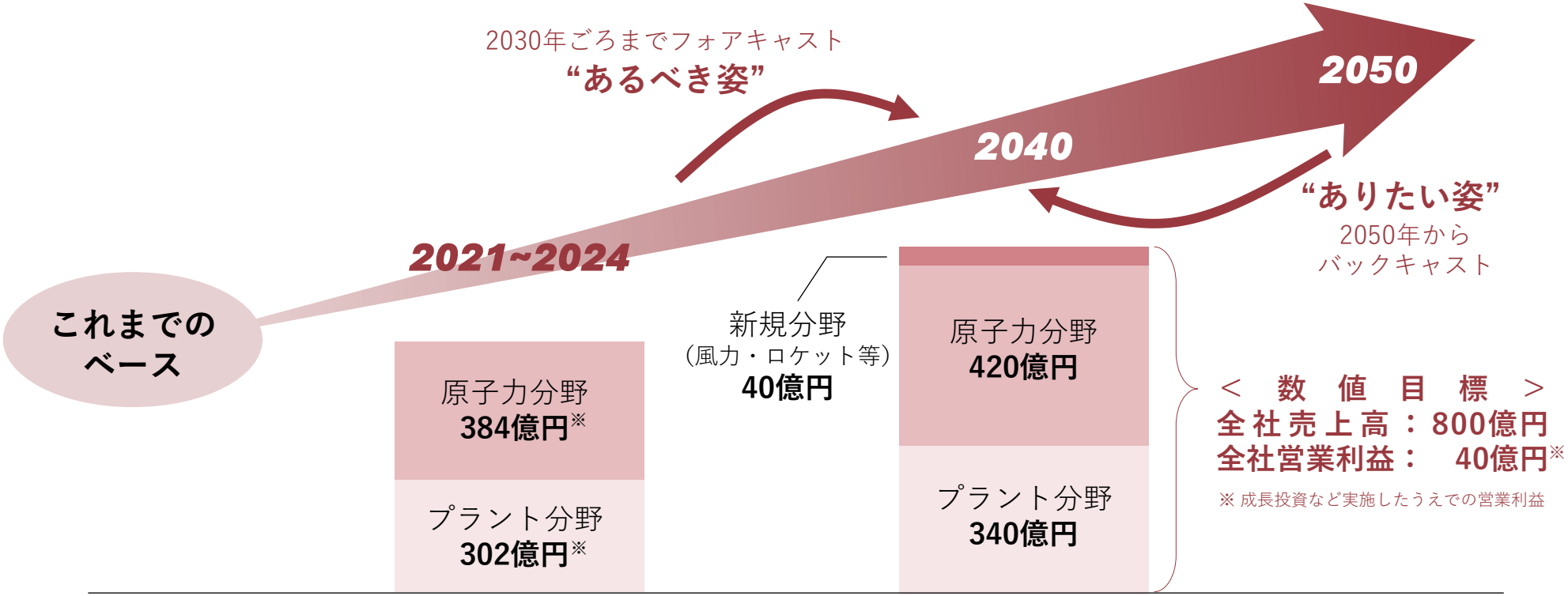
5-1

収支戦略

夢物語ではなく、実現可能性のある目標に向かって。

“これまでのベース”、“あるべき姿”と“ありたい姿”を積み上げる。

お客さま・従業員・地域社会・関西電力グループへの持続的な貢献を実現します。



全社売上高：686億円※
全社営業利益：49億円※

※ 2021～2024年度平均値

All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

5-2

収支戦略

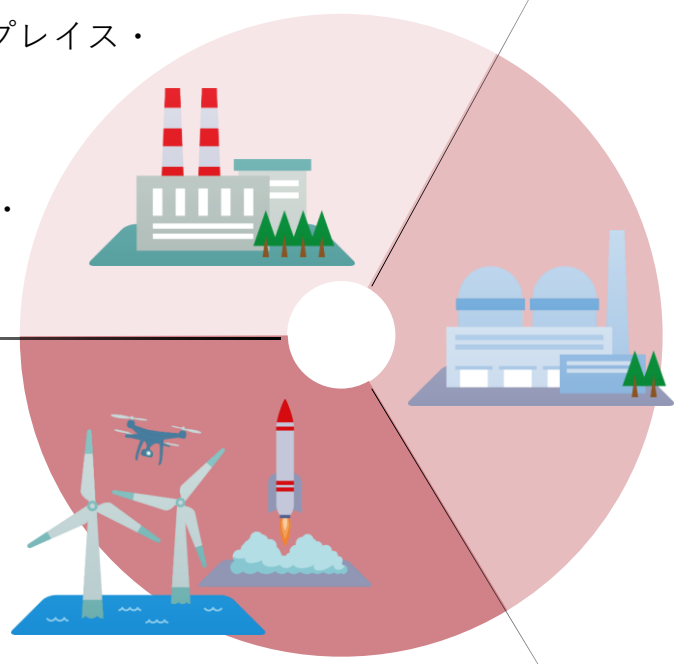
目標達成に向けた分野ごとの取組み。

2040年度の3本柱構成

プラント分野

これまでのベース
定検・修繕・最先端火力へのリプレイス・
設備保全・未参入領域

あるべき姿・ありたい姿
CCS設置・水素/アンモニア混焼・
GX関連工事



原子力分野

これまでのベース
定検・保全・設備新設改良・
廃炉・SA※ 対策・
特定重大事故等対処施設工事

あるべき姿・ありたい姿
後続プラントSA※ 対策・
特定重大事故等対処施設工事・
リプレイス・後続プラント廃炉

※ シビアアクシデント

新規分野
（風力・ロケット等）

これまでのベース
陸上風力メンテナンス・
ロケット打上準備作業

あるべき姿・ありたい姿
陸上／洋上風力メンテナンス・
ロケット組立 etc.

All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

6

要員戦略

「人」は企業の原点であり、最大の資産。

将来的な生産年齢人口の減少を見据え、

企業の核となる人財確保にも積極的に取り組んでいます。

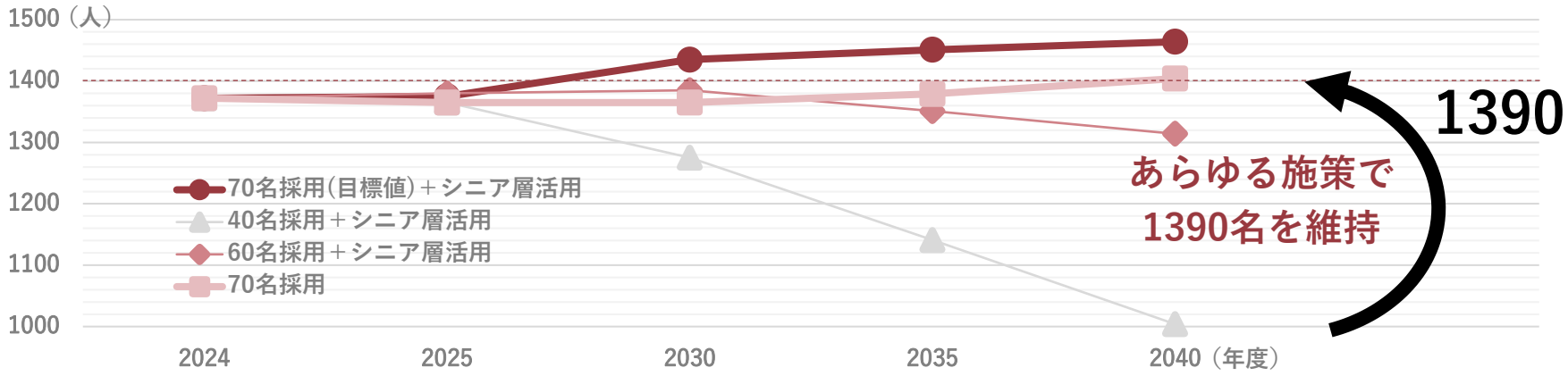
【人財確保の方向性】

あらゆる施策で直接的・実質的な人財を確保し、1390名を維持します。

【弊社の人財】
採用強化に加え、**シニア層活用**を推進するなど、
直接的な人財確保に向けた施策を確立。

【間接的な人財】
業務効率化、**派遣活用**、**グループ間連携**、
他社との**アライアンス**など、
実質的な人財確保に繋がる施策を整備。

要員推移



All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

7

基盤整備

「総合力」と「強い現場力」を、これからもずっと。

「人の会社」の強みを活かすため、従業員エンゲージメントの向上、業務効率化、工事力確保を目指したパートナーとの互恵関係構築による事業基盤強化を目指します。

【2040年の情勢（想定）】	【関電プラントの取組み】
人材、価値観の多様化 （ワークライフバランスやキャリア観など） 雇用の一層の流動化 若年人口の減少、シニア人口の増加	**従業員エンゲージメントの向上** ・従業員への再分配による生活向上の持続 ・健康経営※、働き方改革の推進 ・フレックス勤務拡大、有給休暇や育休取得の推進 ・各種支援制度の充実（奨学金支援制度など）
AIやDXの社会実装	**生産性向上** ・重複業務や机上の不要業務の削減や集約化 ・AIなどDXによる省力化や合理化 ・デジタル技術を用いたエラーの根絶
価格転嫁の普及 建設業界の労働者不足 高齢化に伴う技術伝承の衰退	**工事力確保** ・密なコミュニケーションによる互恵関係の構築 ・適正な価格転嫁の対応 ・パートナーと一体となった技術力確保

※ 健康経営優良法人2025認定

All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation

8

経営戦略上の指標

未来に向け、カラを破ったその先へ。

この指標を達成するため、何としても経戦２０４０をやり切る、やり遂げる。

そんな強い意志のもと、全社ワンチームとなり、“未来に向け、カラを破ります”。

戦略指標		２０２１～ ２０２４年度平均値	２０４０年度
収益性	売上高 （億円）	６８６	８００
	営業利益 （億円） 【営業利益率】	４９ 【７．１％】	４０※ 【５．０％】 ※ 成長投資など実施したうえでの営業利益
基　盤	要員数 （人）	１，３８４ （2024年度末実績）	１，３９０
【参　考】	労働生産性 （百万円）	１６．５ （2024年度末実績）	１７．２

All Rights Reserved,Copyright © Kanden Plant Corporation